

第8回日立市新庁舎建設市民懇話会について（報告）

標記の件について、会議内容を下記のとおり報告します。

記

1. 開催日時 平成26年5月19日（月） 午前10時～午前11時45分まで

2. 開催場所 日立市役所 議会第1・第2会議室

3. 出席者

(1) 新庁舎建設市民懇話会委員

小柳委員（会長）、富樫委員（副会長）、秋山委員、柴田委員、館岡委員、金子委員、小室委員、橋本委員、佐々木委員、白土委員、志賀委員
以上11名（欠席 佐藤委員、有賀委員、沼田委員）

(2) 事務局

佐藤総務部長、大窪企画員

（新庁舎整備局）岡部局長、大平課長、佐藤副参事、助川課長補佐、田村係長、滝係長、加藤主幹、林主幹、豊田主査、 以上11名

(3) 傍聴者

読売新聞、茨城新聞、朝日新聞、JWAY 以上4者

4. 会議資料（別添のとおり）

(1) 会議次第

(2) 実施設計（案）

(3) 新庁舎に導入する設備について

(4) 全体スケジュール

(5) 財源構成について

5. 会議内容（要旨）

第8回の市民懇話会は実施設計（案）の報告、全体スケジュール及び財源構成について説明を行い、それに対する質問及び意見、要望をいただいた。

(1) 災害時の対応について

ア 東日本大震災の際に、給水の要望が非常に多かった。災害時の給水設備はどのように考えているのか。

イ 庁舎に避難した人だけでなく、庁舎周辺に居住する市民に対しての飲料水確保が必要

である。また、隣接する数沢川の水を利用して、トイレの水や職員用のお風呂のための施設を作っておいてはどうか。

【事務局回答】

新庁舎には、3日分の水が貯められる貯水タンクを設置し、加圧で給水することとしている。

万が一、水道水が使えない場合でも、井戸水が使えるようなくみとしている。

職員用として、地下にシャワー室を設置している。

(2) 前回案との変更点（大屋根）について

ア 大屋根がスチールになることで、照明はどうなるのか。

【事務局回答】

交通広場に穴が開き、加えて大屋根中央にスリットをつけることで照度計算をしたところ、昼間は十分な明るさが確保できる。夜間は、一部柱に照明をつけることで対応する設計としている。

イ 大屋根をスチールに変更した理由は、風や積雪への対応ということか。

【事務局回答】

風や積雪の対応以上に、大屋根の下を広い空間として使うためである。前回案のように9m四方に柱があっては利用が制限されるため、柱の本数を減らせないか検討した結果、屋根の荷重を軽くする必要があり、スチールに変更した。

ウ 大屋根の形状はフラットなものより半円形の方が強度があるということか。

【事務局回答】

スチールを曲げることで、強度が保たれ、かつ梁が必要なくなるため、今回の案に変更している。

エ 大屋根の耐用年数はどの位を想定しているのか。

【事務局回答】

防水は10年保証なので、10年ごとに塗装をする必要があるが、鉄板そのものは6ミリの厚さであるため、50～60年は持つと考えている。

(3) 駐車場について

ア 駐車場が外から見えない位置にあり、建設当初は市民の方々も戸惑ってしまうのではないか。また、満車の表示をつけるのか。駐車場が混み合っ、中に入れず道路に飛び出たしまわないよう検討してほしい。

【事務局回答】

市役所に来る方のほとんどが車でおいでになるため、6号国道から視認性の高いサインを設置し、駐車場の位置をはっきりとわかるようにするとともに、満空状態がわかるようなシステムを導入する。

(4) バリアフリー対策について

ア 誘導ブロックの設置範囲は、総合案内所、エレベーター、2階までの動線にお願いしたい。

【事務局回答】

外構計画及びサイン計画の中で配慮することとしたい。

イ 庁舎メインエントランスへの誘導チャイムの設置、トイレなどの衛生設備の機能などはどのようになっているのか。

【事務局回答】

正面玄関に音声誘導設置の設置を考えている。設備については、基本計画で議論した内容を設置することとしている。

(5) 財源について

ア 市報などの広報紙や一般新聞などで、もっと分かりやすい説明をする必要がある。

専門的な用語を使うため理解してもらえないのではないか。

イ 今回の説明を聞いて、国からの財政支援が受けられる、庁舎建設の良いタイミングだと思う。より理解してもらうために、いろいろな団体に説明する必要がある。

【事務局回答】

4月20日号市報に、委員の皆さんに説明した内容を掲載しており、一部の方からは理解をしたとの連絡を受けている。今後も引き続き情報発信を続けていく。

以 上